



第 169 回 ナチスとヒトラー

1 ナチスの登場

・世界恐慌前の 1920 年代、ドイツでは、ヴェルサイユ体制の厳しい内容や経済の混乱のため、ヴァイマル政府の民主政治に対して不満が高まっていた。

- ・ () を率いる () は、ファシズムの影響を受けてヴェルサイユ体制やヴァイマル共和国を批判し、() ・反共産主義 ・民族共同体建設などを主張していた。
- 1923 年、ヒトラー率いるナチ党は () を起こすが失敗した。
- ヒトラーは投獄され、獄中で『] を口述筆記した。
- 武力による政権奪取をあきらめ、選挙による合法的な政権獲得を目指した。



ヒトラー

あまり知られていないが、ヒトラーはオーストリア生まれである。元々は画家志望であったが、第一次大戦後に政治家を志すようになった。



ミュンヘン揆

写真はミュンヘンを封鎖しようとする突撃隊員。デモは警察によって鎮圧され、クーデタはあっさり失敗となった。



『我が闘争』

ナチスのバイブルとも言える本。自身の生い立ち(ただし誇張も多い)からはじまり、民族共同体の建設や反ユダヤ主義など、ヒトラーの思想が詳細に述べられている。

2 ナチス政権の成立

・ドイツでは、回復しかけていた経済が世界恐慌によって壊滅的な打撃を受けた。
→失業者が増大し、ナチスなどの右翼政党や共産党が支持を伸ばしていた。

- ◆ () (在任 1925~1934 年)
- ・1925 年、第一次世界大戦の英雄ヒンデブルクが、大統領に就任した。
→政治は安定せず、大統領緊急令によってしばしば少数派内閣が成立していた。
- ・() で、ヒトラーは巧みな演説と大衆宣伝によって、() や農民など政府に不満を持つ大衆の支持を集め、第一党となった。
→保守的な資本家や軍部も、共産党に対する警戒からナチ党に期待した。
→1933 年、ヒンデブルクはヒトラーを首相に任命し、ナチス政権が成立した。
※ナチス政権のドイツをナチス=ドイツもしくは第三帝国と呼んでいる。
- ・1933 年、() をきっかけに、ヒトラーは () を解散させて弾圧した。
→さらに () によって、立法権を政府にうつした。
→そしてナチ党以外のすべての政党を解散させて、() を実現した。

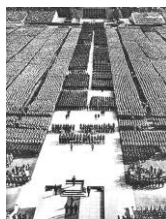


ヒトラーとヒンデブルク

ナチス政権の成立には、躍進する共産主義勢力を抑えようとする、資本家や軍からの支持が背景にあった。



ゲッベルス宣伝相 ナチスの党大会



宣伝大臣のゲッベルスは、映画やラジオなど新しいメディアを巧みに用いた。ニュルンベルクで行われた党大会でも、斬新な演出が行われた。



国会議事堂放火事件

共産主義者の若者が放火犯として逮捕され、処刑された。ナチスの陰謀という説もあるが、真相は現在も不明。

3 ドイツ第三帝国

・1934年、ヒンデンブルクが死去すると、ヒトラーは大統領・首相・党首を兼ねる（ ）となり、独裁者となった。

◆ヒトラー（首相在任 1933～総統在任 1934～1945年）

・四カ年計画による軍需産業の拡大、（ ）の建設、福祉事業の整備、娯楽や余暇の提供を行って失業者を急速に減らし、国民の支持を集めた。



アウトバーン

アウトバーンは、世界初の高速道路ネットワークであった。失業者を減らすだけでなく、ドイツが自動車大国となる道を開いた。



ポルシェ博士とヒトラー

ヒトラーに「国民車」の説明をするポルシェ博士（左側で車の模型を指している）。それまで自動車は、一般大衆には手の届かないものだった。



支持者に囲まれるヒトラー

ナチスというと、暴力的に政権を奪ったという誤解が付きものだが、そうではない。国民の支持により、政権の座についたのである。

・一方でヒトラーは、（ ）・（ ）・（ ）を使って、ナチスに反対する者やロマ（ジプシー）などを監視し、弾圧した。
 →特に（ ）（反セム主義）は激しく、後にホロコーストが行われた。
 →作家の（ ）や、科学者の（ ）は、迫害を避けて国外に亡命した。



親衛隊(SS)

親衛隊は、軍隊ではなくヒトラーの私兵であった。ユダヤ人の「処理」は主要任務であり、数々の残虐行為を実行した。



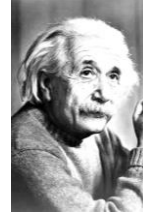
「水晶の夜」で破壊されたユダヤ人の店

「ユダヤ人」とそれを示すダヴィデの星が書かれている。店にはこのような落書きがされ、ボイコットが呼びかけられた。「水晶の夜」は特に有名。



トーマス=マン

『魔の山』などで知られるノーベル文学賞作家である。スイス、後にアメリカへと亡命した。



アインシュタイン

ユダヤ系ドイツ人の科学者で、相対性理論で知られている。彼がアメリカへ亡命したことが、原爆開発につながった。

4 ナチス=ドイツの対外侵略

・1933年、ヒトラーは、ヴェルサイユ条約で定められた軍備制限の撤廃が認められないことをきっかけに、（ ）した。

・1935年、国際連盟の管理都市だった（ ）を、住民投票により編入した。
 →さらにヒトラーは、（ ）と（ ）を行った。
 →イギリスはドイツとの妥協をはかり、（ ）を結んだ。
 →ソ連はドイツを警戒し、フランスと仏ソ相互援助条約を結んだ。

・1936年、ヒトラーはロカルノ条約を破棄して、（ ）を行った。
 →英・仏はこれを止めることができず、ヴェルサイユ体制は破綻した。



再軍備宣言

ヴェルサイユ条約では空軍が禁止されていたが、ヒトラーは密かに開発を続けていた。写真は、入試には出ないがハインケル社製の爆撃機。



ベルリンオリンピック

1936年のベルリンオリンピックは、「ヒトラーのオリンピック」と呼ばれ、初の聖火リレーが行われた。リーフェンシュタールの記録映画も有名。「前畑がんばれ！」



ラインラント進駐

ラインラント進駐は、ヒトラーにとっても賭けであった。軽装備のドイツ軍は、仮にフランス軍に抵抗された場合、撤退するほかなかったのである。